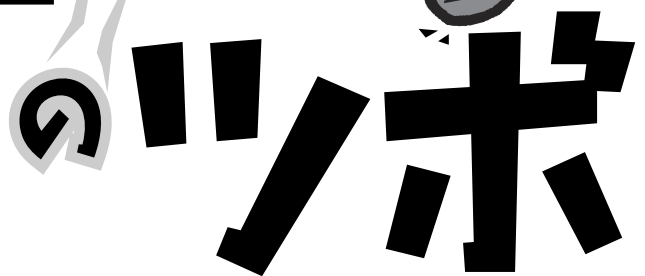


Visual Basic NET



第35回 フォームの便利な機能 –その2–

西田 雅昭
NISHIDA, Masaaki

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

Level



Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥TUBOディレクトリに収録しています。

¥TESTMDI
MDIフォーム

¥POSESS
フォームの所有関係

¥TESTDIALOG
フォームのダイアログ化

前回到続いて、VB.NETにおけるフォームの便利な使い方を紹介することになります。今回は、VB6.0と扱い方が違う点に注目することにしてしましよう。



MDIフォームの 作り方

WordやExcelはマルチドキュメントインターフェイス (MDI: Multiple Document Interface) といっ、一度に複数のドキュメントを開き、各ドキュメントをそれぞれのウィンドウに表示できるようになっています。

このMDIフォームの作り方は、VB 6.0とVB.NETでは、だいぶ違いますし、結構便利になっています。今回はまずMDIの作り方ははじめましよう。

例によって、まず作成してみることです。新規作成で、「TestMDI」というプロジェクトを作ることにしてましよう。

いつものように、フォームのファイル名を“frmMain.vb”、オブジェクト名を“frmMain”と訂正し、プロジェクトのプロパティでスタートアップフォームを“frmMain”に設定します。

続いて、フォームの「IsMdiContainer」プロパティを“True”に設定してください。フォームが立体的になり、背景色が濃くなったはずですが、これでMDI親フォームを作成することができました。

フォームの「Text」プロパティは“MDIEditor”に設定し、複数のファイルが同時に開けるメモ帳を作ることにしてましよう。

どうせ作るのなら格好よく、画面一杯にウィンドウが開くようにしましよう。フォームの「WindowState」プロパティを“Maximized”に設定します。これで実行すると、画面一杯のウィンドウが開きます。

どうやってウィンドウを閉じるのか、などと心配しないでください。ウィンドウ右上の「元に戻す (縮小)」ボタンを押すと小さくなりますし、[X] ボタンでプログラムを停止することもでき

図1：メニュー項目を2つ追加



ます。

●メニューも必要

操作するためには、ボタンではなくメニューが必要ですね。

ツールボックスで、「MainMenu」をダブルクリックしてください。まずメニュー項目を2つ作ります (図1)。

	プロパティ	値
MenuItem1	(Name)	mnuFile
	Text	ファイル(&F)
MenuItem2	(Name)	mnuWindow
	Text	ウインドウ(&W)

メニューの作り方がわからない方は、キーワード検索で「Windows フォームへのメニューとメニュー項目の追加」を探してヘルプを参照してください。デザイナー上で「MainMenu1」を選択しておいて、ダイナミックヘルプを見てもよいでしょう。

続いて、メニュー項目「mnuFile」のサブ項目を3つ作成します (図2)。

	プロパティ	値
MenuItem1	(Name)	mniFileNew
	Text	新規作成(&N)
MenuItem2	Text	-
MenuItem3	(Name)	mniFileQuit
	Text	終了(&Q)

そして、メニュー項目「mnuWindow」を選択した状態で、プロパティウィンドウの「MdiList」プロパティを“True”に設定します。これで、MDI子フォー

図2：[ファイル] メニューのサブ項目



ムの一覧を表示してくれます。

さらにサブ項目を3つ設定します (図3)。

	プロパティ	値
MenuItem1	(Name)	mniWindow Cascade
	Text	重ねて表示(&C)
MenuItem2	(Name)	mniWindow TileH
	Text	縦に並べて表示(&H)
MenuItem3	(Name)	mniWindow TileV
	Text	横に並べて表示(&V)

●MDI子フォームも作ろう

これでMDI親フォームはできました。次はMDI子フォームです。

メニューから、[プロジェクト]-[Windows フォームの追加]と選択して、「新しい項目の追加」ダイアログボックスを開きます。そして、「テンプレート」から“Windows フォーム”を選択して、「ファイル名」テキストボックスに“frmChild”と入力し、「開く」ボタンをクリックしてください。

このフォームは比較的大きくしておきましょう。続いて、ツールボックスで、「RichTextBox」をダブルクリックします。この「RichTextBox」の「Anchor」プロパティが“Top, Left”になっていることを確認してから、「Dock」プロパティを“Fill”に指定します。こ

図3：[ウインドウ] メニューのサブ項目

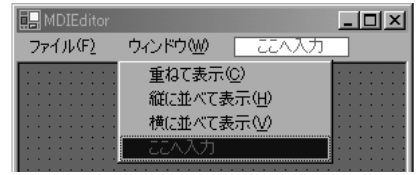
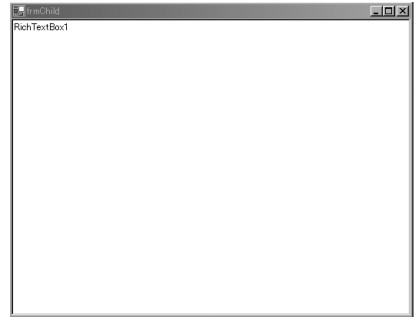


図4：MDI子フォーム一杯に配置した「Rich TextBox」



これで「RichTextBox」がフォーム一杯になりましたね (図4)。

このフォームが、MDI子フォームのテンプレートになります。

●[ファイル] メニューの機能

いよいよコードを書くときがきました。

MDI親フォーム「frmMain」のコードエディタを開き、まず、変数をひとつ宣言します。

```
Private mintChild As Integer = 0
```

これは、MDI子フォームの番号を表わします。

はじめに [ファイル] メニューの機能から実装していきましょう (リスト1)。

[終了] サブメニューのイベントハンドラは簡単です。デザインモードのフォーム「frmMain」で [ファイル] メニューをクリックすると、このメニュ